

お 知 ら せ

平成23年3月13日
日本原子力発電株式会社

東北地方太平洋沖地震における東海第二発電所の原子炉自動停止について (3月13日20時00分現在の状況)

東北地方太平洋沖地震により、定格熱出力一定運転中の東海第二発電所（沸騰水型軽水炉：定格電気出力 110 万キロワット）は、タービン振動大によりタービンが停止し、原子炉が自動停止しました。

(3月11日、12日お知らせ済み)

その後、本日19時37分に外部予備電源（154 kV）が復旧したことを受け、所内電源への切り替え作業を実施しています。この作業が終わり次第、残留熱除去系^(※)等の操作を行い、原子炉を冷温停止状態へ移行させることとしています。

※残留熱除去系：原子炉を停止した後に発生する燃料の崩壊熱の除去を行う系統

現在の発電所の状況は以下のとおりです。

1. 原子炉施設等の状況

- ・原子炉およびタービン発電機は、安全に停止しました。
- ・現在、原子炉の温度、圧力、水位ともに安定した状態です。

2. 周辺環境への放射能の影響

- ・放射能の漏えいなどの発生はありません。
- ・モニタリングポストなど、環境放射線モニターの指示値の変化はなく、外部への放射能の影響はありません。今後も引き続き監視してまいります。

3. 火災及び人災の発生の状況

- ・火災および人身災害の発生はありません。

4. 電源系統

- ・地震の影響により、外部電源が停止しておりましたが、本日19時37分に外部予備電源（154 kV）が復旧しました。

5. 津波による影響

- ・津波による影響で停止している非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ1台については、引き続き復旧作業を進めていきます。
- ・低レベル放射性固体廃棄物貯蔵庫の地下廊下付近に海水の水溜り（400ℓ）を確認しました。
- ・引き続き、津波による影響について調査します。

6. 地震による影響

- ・使用済燃料プールおよびサイトバンカープールの水が、揺れにより一時的に溢水したことを確認しました。（使用済燃料プール25m³、サイトバンカープール13m³）
- ・低レベル放射性固体廃棄物貯蔵庫の点検を実施したところ、B棟において一部の鉄箱が倒れていることを確認しましたが、蓋の開放等はなく、表面汚染濃度も検出限界値未満でした。

7. その他

- ・当社は、地震発生後社長を本部長とする「東北地方太平洋沖地震対応本部」を設置し、全社一丸で対応にあたっております。
- ・敦賀発電所（1号機：定期検査中、2号機：定格熱出力一定運転中）は異常ありません。

今後も、状況がわかり次第、随時お知らせいたします。

以 上

問合せ先：日本原子力発電株式会社
広 報 室 荻 野・椎 名
T E L：03－6371－7300